

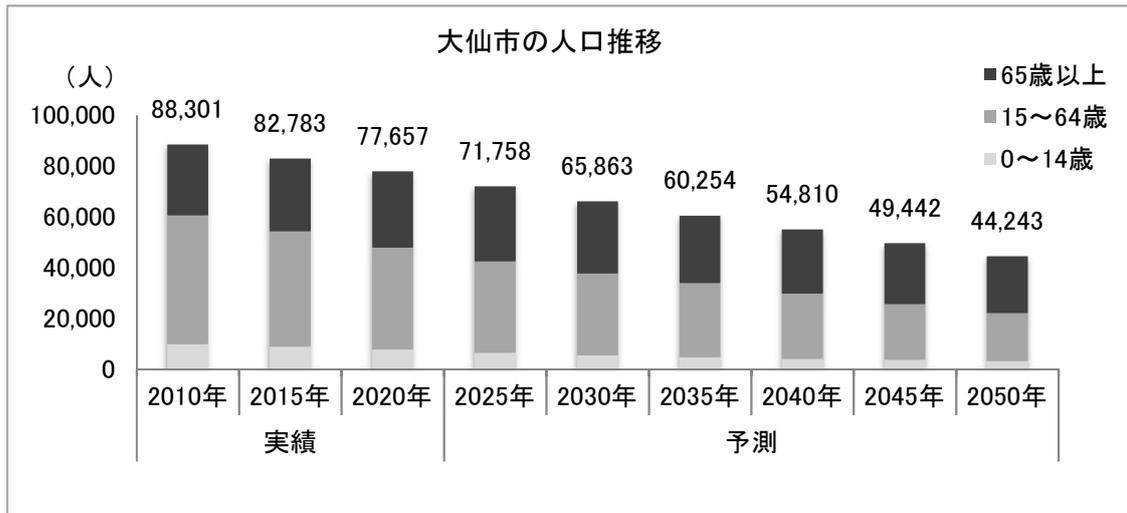
第2部

大仙市民の健康をとりまく状況

第1章 人口に関する指標と動向

■人口推移と人口予測

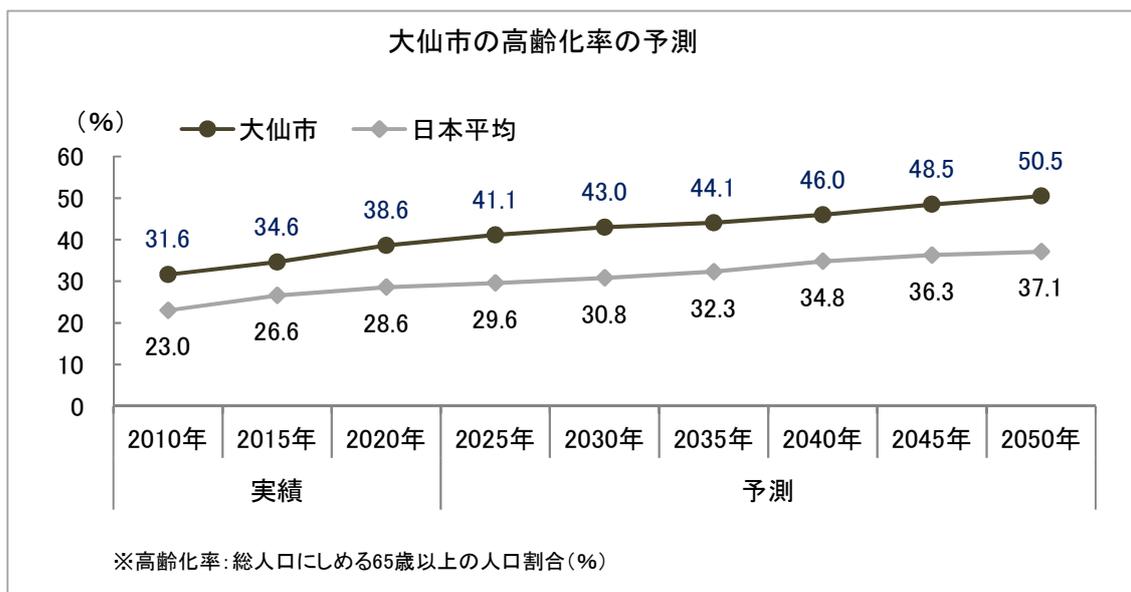
本市の人口は、2010年の88,301人から2020年の77,657人と、10年間で約1万人減少しており、今後も本市の人口減少は緩むことなく続いていくと推計されます。



【出典】実績：総務省「国勢調査」、予測：国立社会保障・人口問題研究所「将来推計人口」

■高齢化率の推移

本市の人口に占める65歳以上の割合を示す高齢化率は年々高まっており、10年後の2035年には高齢化率が45%に迫ると推計されています。

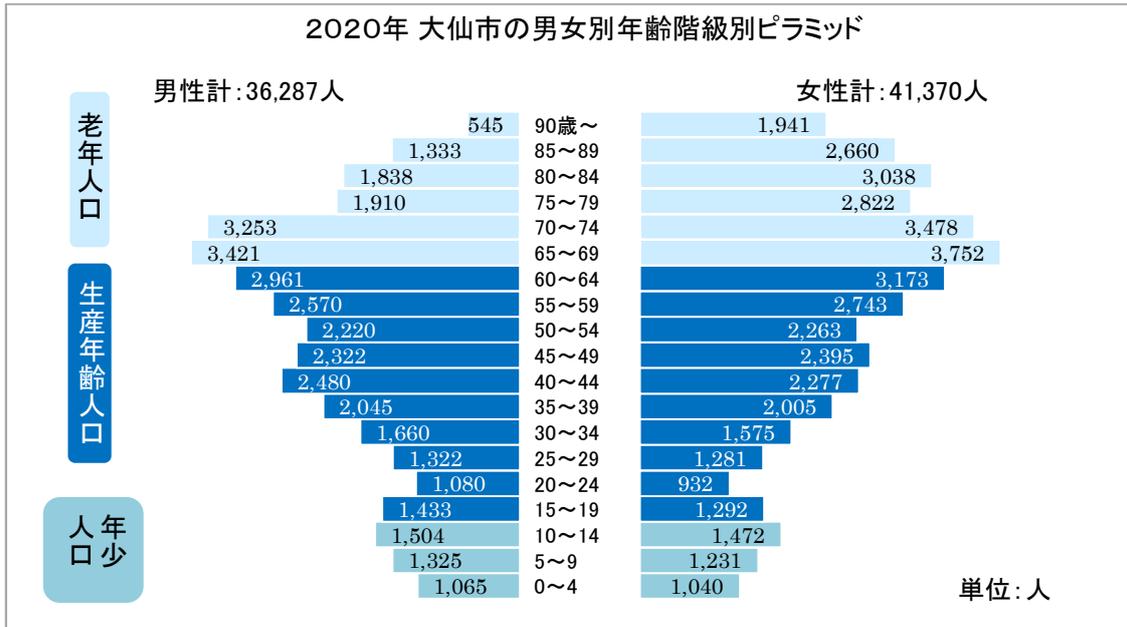


【出典】実績：総務省「国勢調査」、予測：国立社会保障・人口問題研究所「将来推計人口」

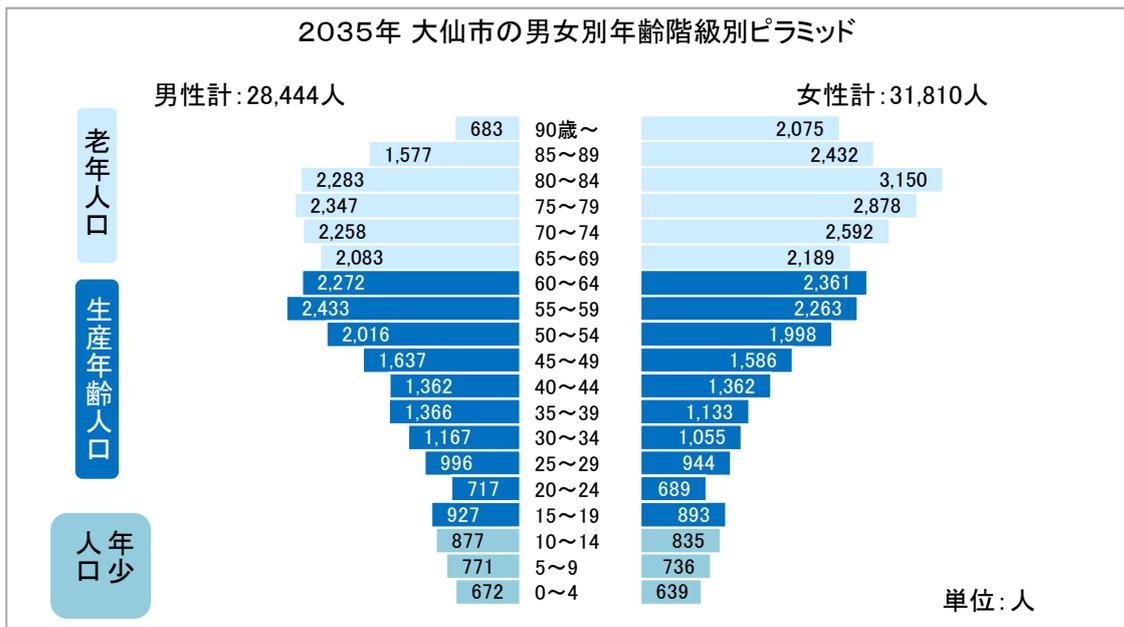
■年齢階級推計

本市の年齢階級別人口は、2020年では男女ともに65～74歳が多くなっていますが、2035年には男女ともに75～84歳が最も多くなっていると推計されています。

また、14歳以下の年少人口は、2020年が7,637人（全体の約10%）であるのに対して、2035年には4,530人（全体の約8%）と推計されており、今後も少子高齢化の現象は加速していくことが推測されます。



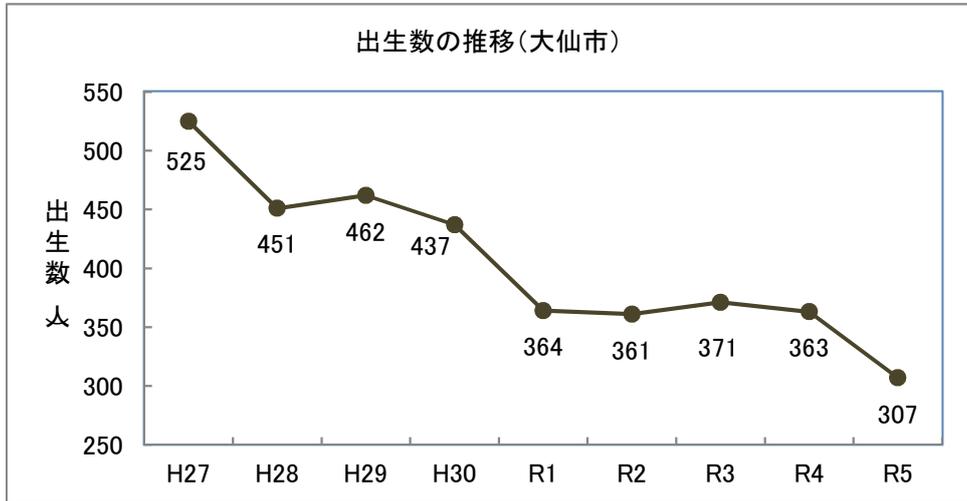
【出典】実績：総務省「国勢調査」



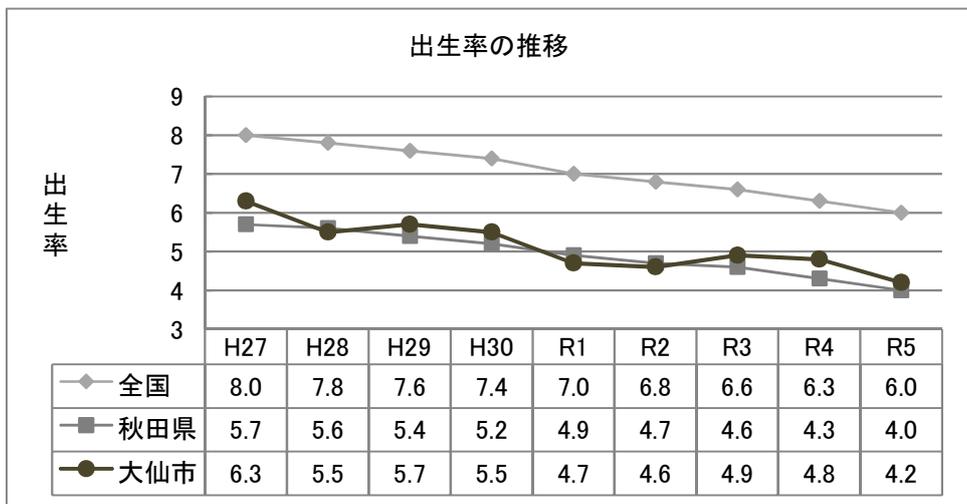
【出典】国立社会保障・人口問題研究所「将来推計人口」

■出生数と出生率の推移

本市の出生数は年々減少傾向にあります。また、高齢化率の高い本市においては、人口1,000人あたりの出生数を示す出生率が全国平均を下回る傾向にあり、秋田県値とほぼ同値で推移しています。



【出典】秋田県衛生統計年鑑

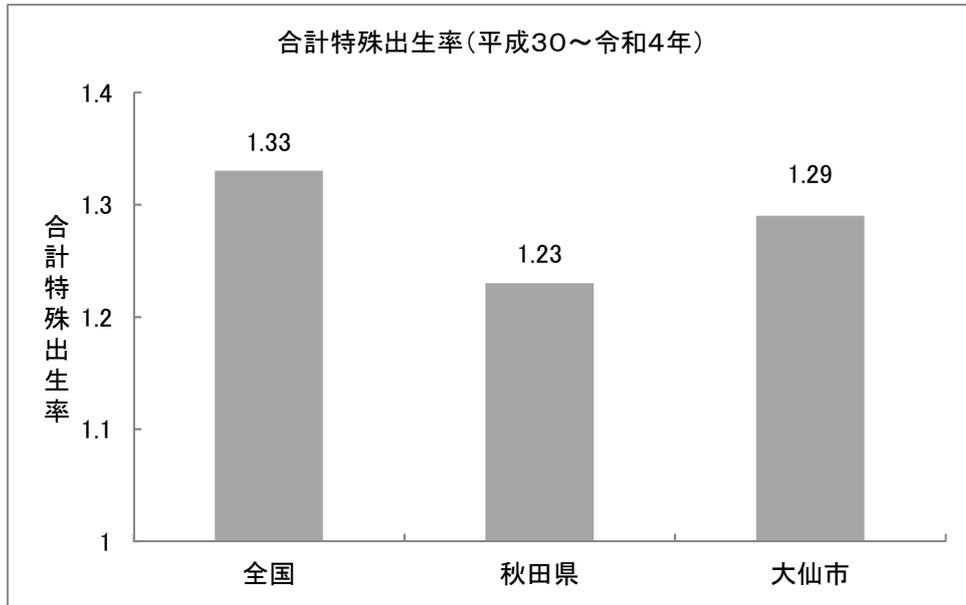


【出典】秋田県衛生統計年鑑

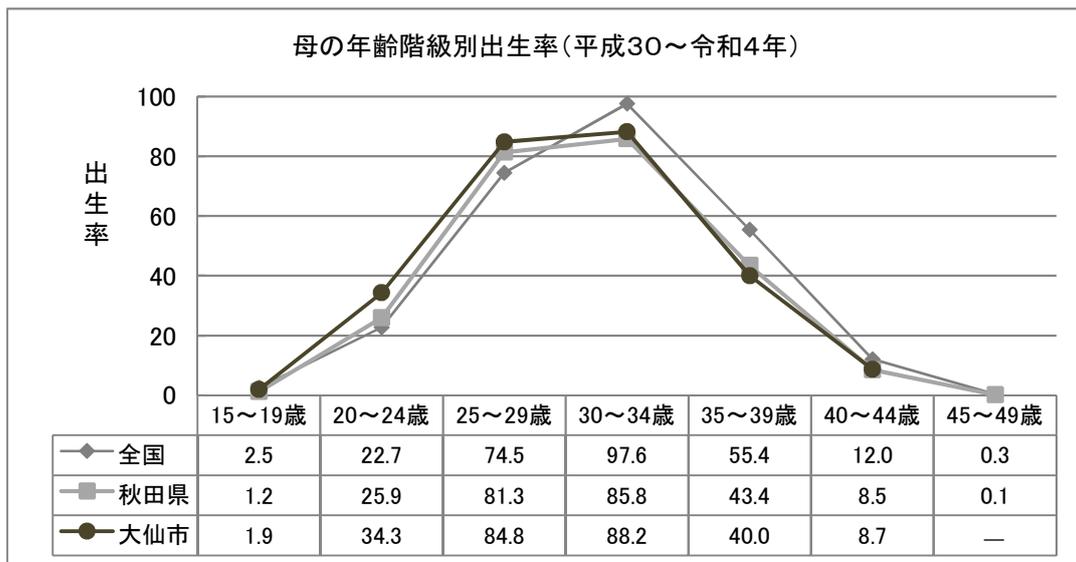
■出生の状況

本市の合計特殊出生率（一人の女性が生涯で出産する子どもの平均数）は1.29と、秋田県値を上回っていますが全国値は下回っています。

また、母親の年齢階級別の出生率（女性人口対千人）は、本市と秋田県値のピークが30～34歳にあり、全国値のピークと同様の状況です。



【出典】厚生労働省「平成30年～令和4年人口動態保健所・市町村別統計」



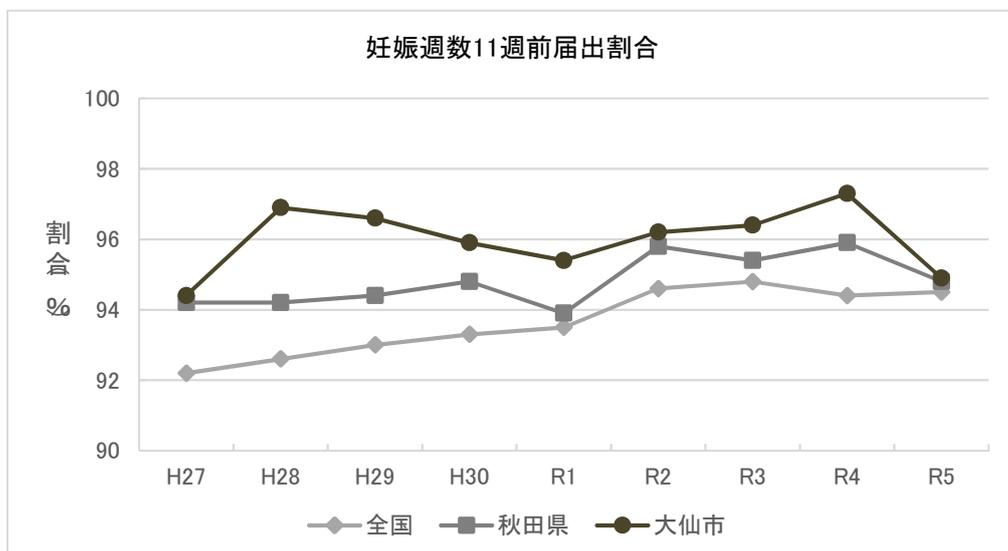
【出典】厚生労働省「平成30年～令和4年人口動態保健所・市町村別統計」

■妊娠届出状況

本市の妊娠届出状況は、国が推奨する妊娠週数11週前の届出率が増加傾向にあり秋田県値を上回っています。

| 年度 | 団体 | 妊娠届出者数 (人) | 妊娠週数11週前 届出者数(人) | 妊娠週数11週前 届出率(%) |
|-----|-----|---------------|---------------------|--------------------|
| H30 | 全国 | 933,586 | 871,297 | 93.3% |
| | 秋田県 | 4,899 | 4,646 | 94.8% |
| | 大仙市 | 395 | 379 | 95.9% |
| R1 | 全国 | 914,183 | 854,568 | 93.5% |
| | 秋田県 | 4,589 | 4,307 | 93.9% |
| | 大仙市 | 370 | 353 | 95.4% |
| R2 | 全国 | 867,510 | 820,361 | 94.6% |
| | 秋田県 | 4,497 | 4,308 | 95.8% |
| | 大仙市 | 371 | 357 | 96.2% |
| R3 | 全国 | 831,824 | 788,671 | 94.8% |
| | 秋田県 | 4,151 | 3,959 | 95.4% |
| | 大仙市 | 385 | 371 | 96.4% |
| R4 | 全国 | 790,417 | 746,355 | 94.4% |
| | 秋田県 | 3,762 | 3,606 | 95.9% |
| | 大仙市 | 300 | 292 | 97.3% |
| R5 | 全国 | 750,992 | 709,740 | 94.5% |
| | 秋田県 | 3,404 | 3,226 | 94.8% |
| | 大仙市 | 273 | 259 | 94.9% |

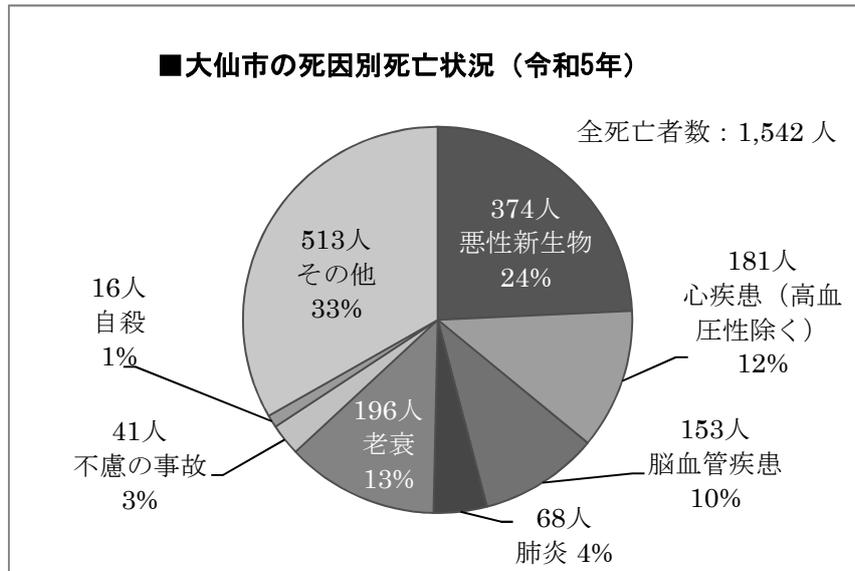
【出典】地域保健・健康増進事業報告(地域保健編)市区町村編



第2章 健康に関する指標と動向

■死因別死亡状況

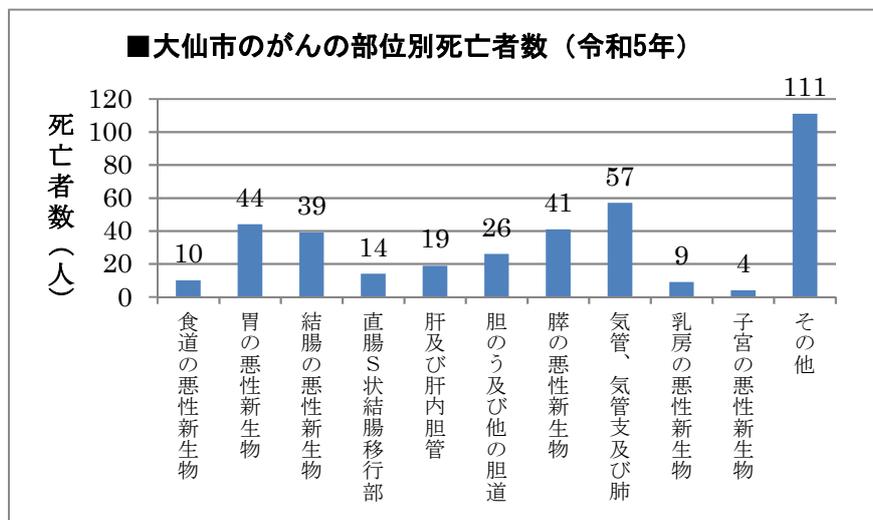
本市の令和5年の死因別死亡状況をみると、悪性新生物（がん）、心疾患（高血圧性除く）、脳血管疾患の三大生活習慣病による死亡者数が全体の46%を占めています。



【出典】秋田県衛生統計年鑑

■悪性新生物の部位別死亡状況

本市の悪性新生物の部位別死亡者数をみると、気管、気管支及び肺の悪性新生物による死亡者数が最も多く、次いで胃の悪性新生物による死亡者数が多くなっています。

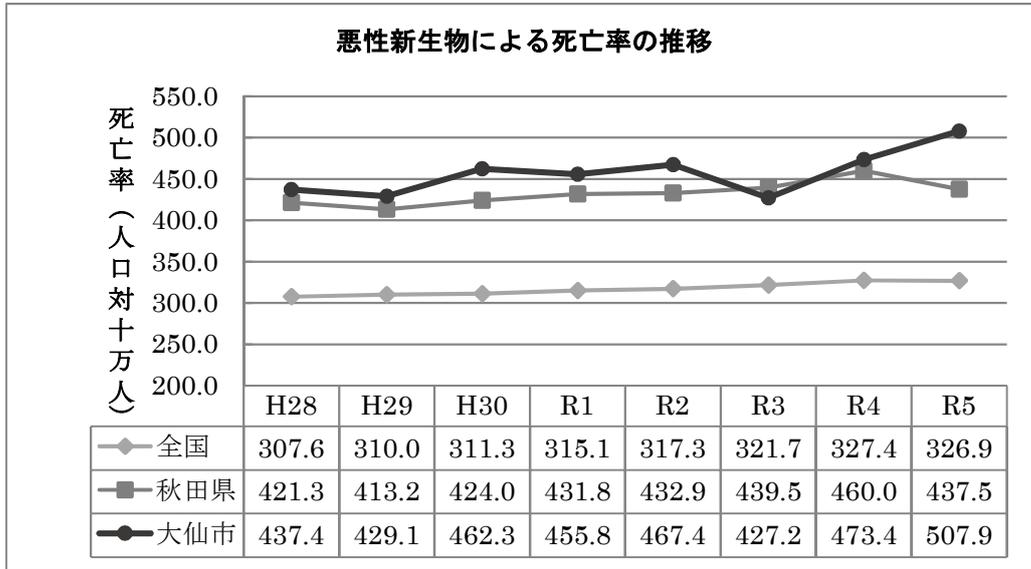


【出典】秋田県衛生統計年鑑

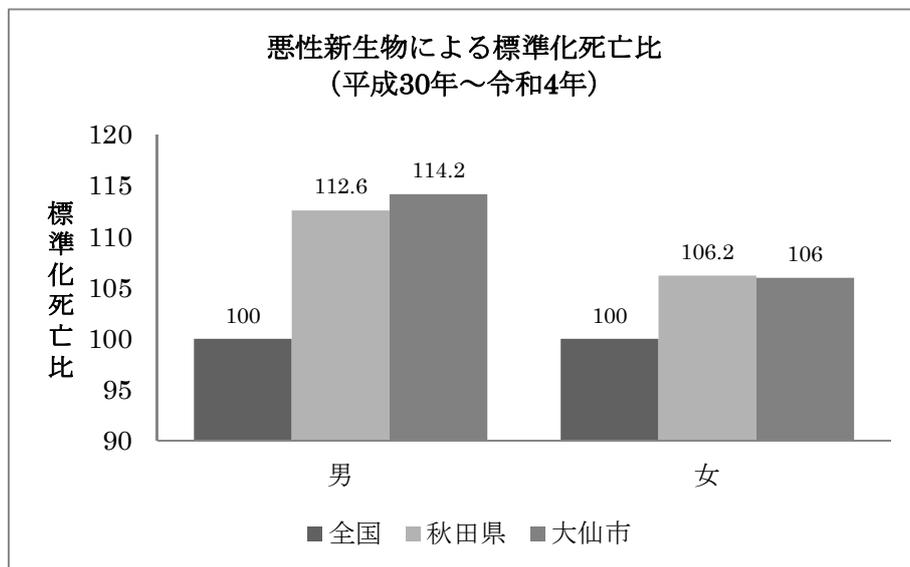
■悪性新生物による死亡率の推移

悪性新生物による死亡率は、平成28年と令和5年では、全国値は19.3ポイント、県値は16.2ポイント、市では70.5ポイントの増で、国・県と比較すると約4倍上回っています。

また、本市の標準化死亡比（SMR）は、県値と比較して、男性は1.6ポイント上回っており、女性は0.2ポイント下回っています。



【出典】秋田県衛生統計年鑑・人口動態調査



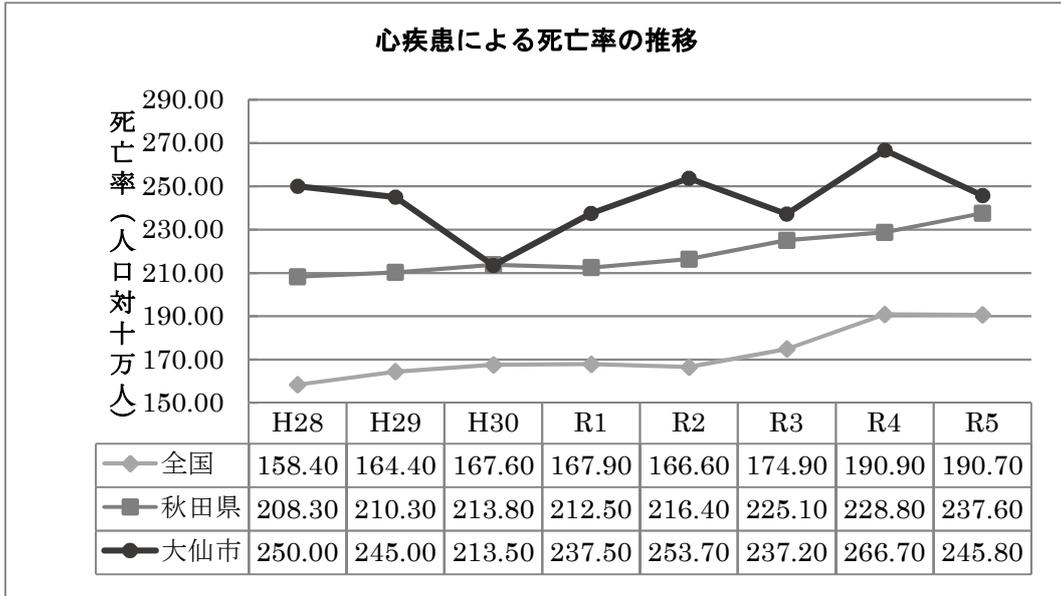
【出典】厚生労働省「平成30年～令和4年人口動態保健所・市町村別統計」

※標準化死亡比（SMR）は全国を基準（=100）とした場合に、大仙市と秋田県でそれぞれ年齢調整した死亡率（死亡の起こりやすさ）がどの程度かを表しています。100以上の場合は全国よりも死亡率が高いことを意味し、100以下の場合、死亡率が低いことを意味します。

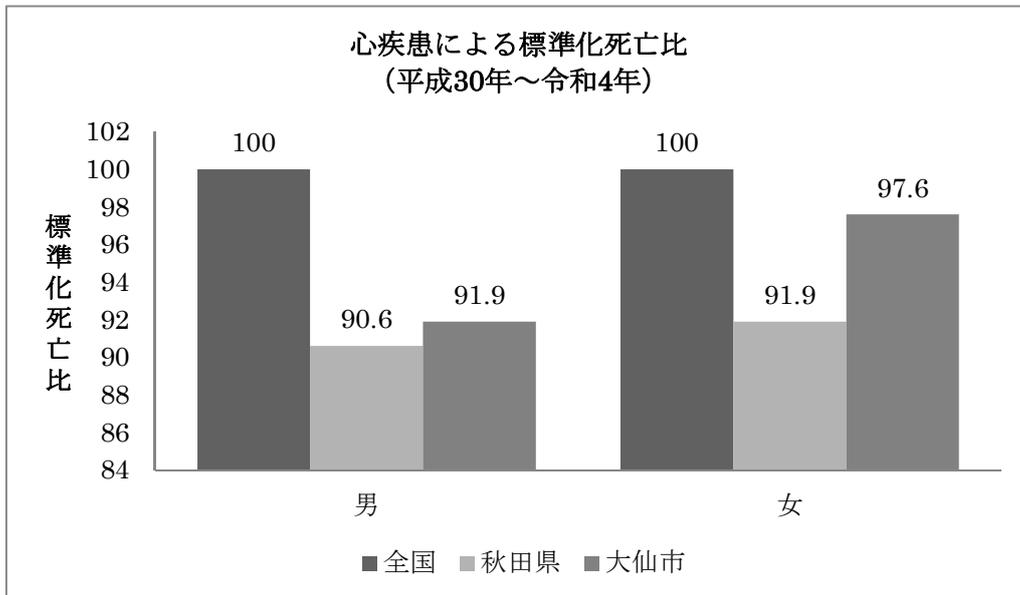
■心疾患による死亡率の推移

本市の心疾患による死亡率は、平成28年と令和5年では、マイナス4.2ポイントと減少しているものの、全国値・県値を上回っています。

また、本市の標準化死亡比（SMR）は、男性・女性ともに全国値よりは低いものの、県値よりは高い値となっています。



【出典】秋田県衛生統計年鑑・人口動態調査

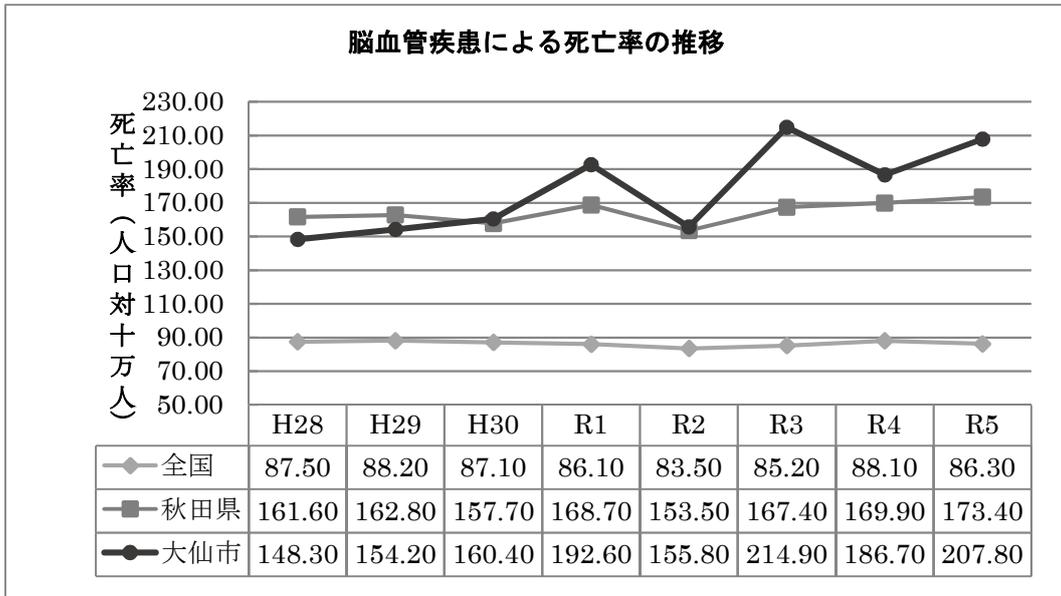


【出典】厚生労働省「平成30年～令和4年人口動態保健所・市町村別統計」

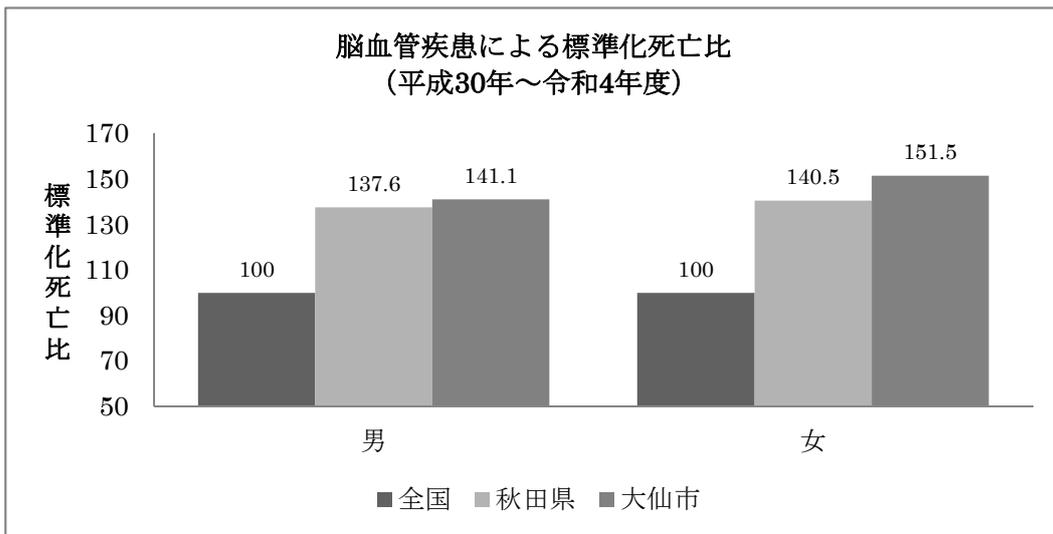
■脳血管疾患による死亡率の推移

本市の脳血管疾患による死亡率は、全国値・県値よりも高い値で推移しています。

また、本市の標準化死亡比（SMR）は、県値と比較して、男性・女性ともに高く、全国値と比較すると、特に女性の値にひらきが見られます。



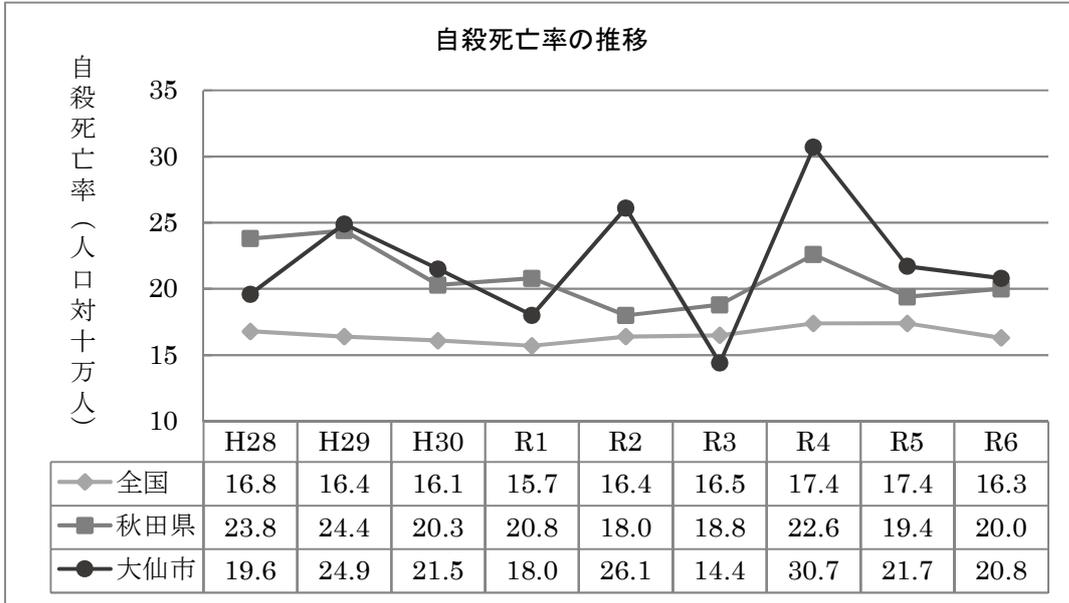
【出典】秋田県衛生統計年鑑・人口動態調査



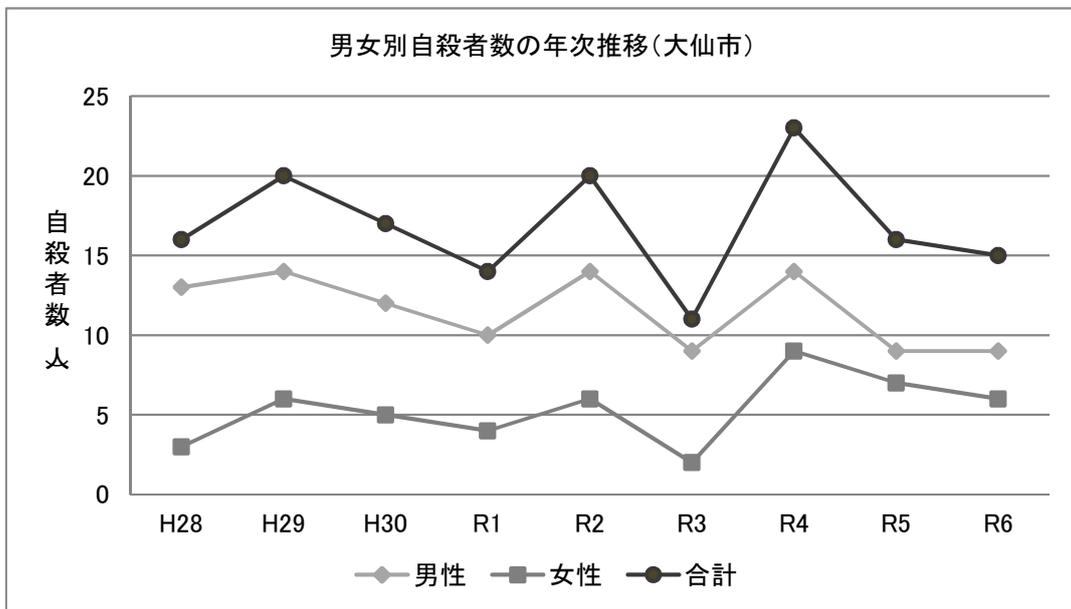
【出典】厚生労働省「平成30年～令和4年人口動態保健所・市町村別統計」

■自殺率の推移

本市の自殺率（人口10万人あたりの自殺者数）は、全国値や秋田県値より高い年もあるものの、概ね20前後で推移しています。

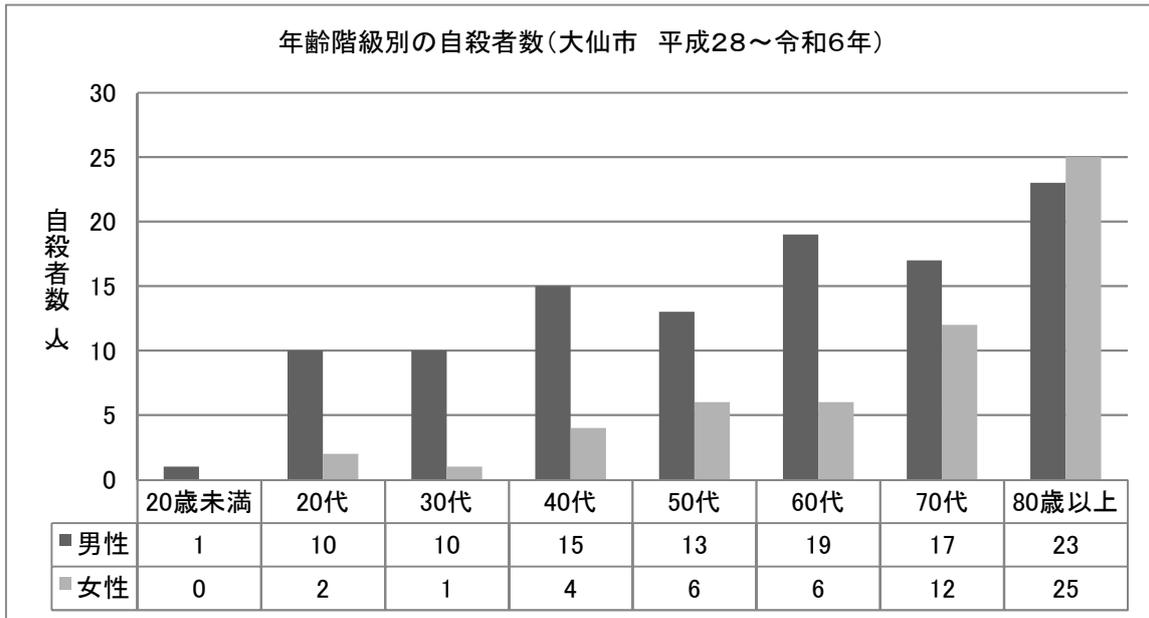


【出典】秋田県における自殺の現状（秋田県監修）



【出典】秋田県における自殺の現状（秋田県監修）

本市の自殺者数の推移を男女別にみると、男性は女性よりも自殺者数が多く、男性の占める割合が50～80%で推移しています。



【出典】警察庁「自殺統計」

平成28年から令和6年における自殺者数の合計を年代別にみると、男性は60代及び80歳以上、女性は80歳以上の自殺者数が多くなっています。

※ 厚生労働省の人口動態調査と警察庁の自殺統計では調査対象、調査時点、事務手続き(訂正報告)に差異があるため、自殺者数は一致しません。

第3章 健康と生活習慣に関するアンケート調査結果

健康と生活習慣に関するアンケート概要

1. 調査目的

第2次健康大仙21計画にもとづく本市の健康づくり事業の推進により、市民の健康づくりに対する意識の変化を調べるとともに、第3次健康大仙21計画の基礎資料となる市民の健康意識と健康づくりに関する生活習慣等の実態を調査することを目的とします。

2. 調査期間

令和7年7月15日 ～ 令和7年8月29日

3. 対象者

①19～80歳の市民 2,500人（令和7年7月1日時点の年齢）

②中学生・高校生の市民 1,043人

合計 3,543人

4. 対象者の抽出方法

令和7年7月1日時点の住民基本台帳から、19歳以上の市民及び中学生、高校生を対象として、性別、年代、居住地域を考慮した層化2段無作為抽出を行いました。

5. アンケート配布方法及び回収方法

①19～80歳の市民については配布及び回収を郵送で実施しました。

②中学生はアンケート集計システムからの回答、高校生は各校に配布と回収を行いました。

6. アンケート様式

19～80歳用の様式と中学生・高校生用の様式の2種類を使用しました。

7. 有効回収及び回収率

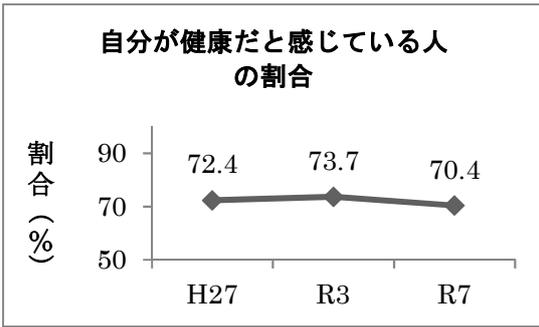
①19～80歳：有効回収（人）：966 回収率：38.6%

②中学生・高校生：有効回収（人）：849 回収率：81.4%

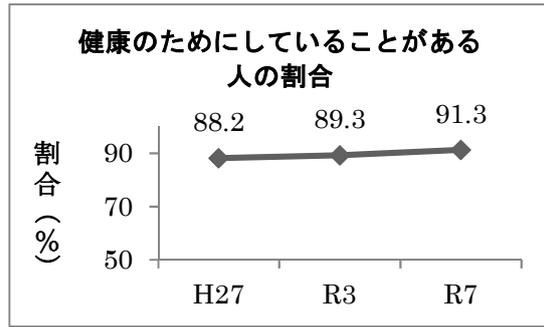
8. その他

・同一世帯からの対象者の抽出は1名以内としました。

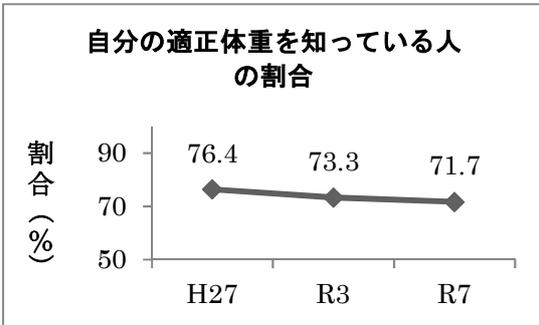
■19～80歳



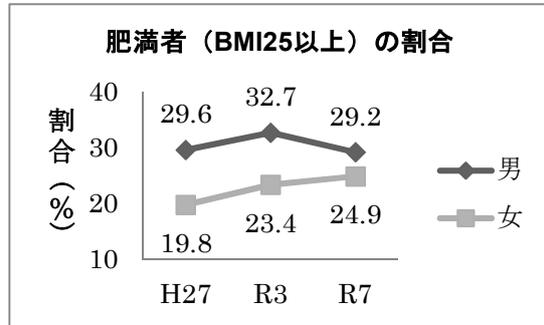
計画期間で、2ポイント減少しています。7割以上の市民が自分は健康だと感じています。



計画期間で、3.1ポイント増加しています。9割以上の市民が健康づくりを実践しています。

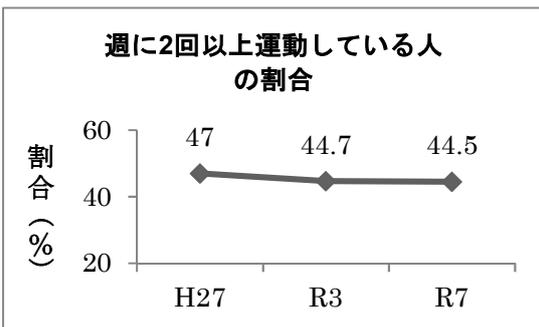


計画期間で、4.7ポイント減少しています。7割以上の市民が自分の適性体重を知っています。



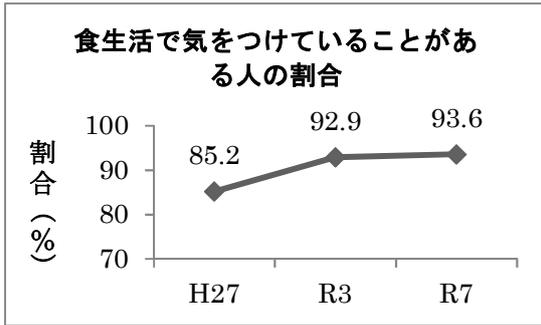
計画期間で、男性はほぼ横ばい状態、女性は5.1ポイント増加しています。男女の肥満者の割合の差が少なくなっています。

※ BMI：体重 (kg) ÷ [身長 (m)]²

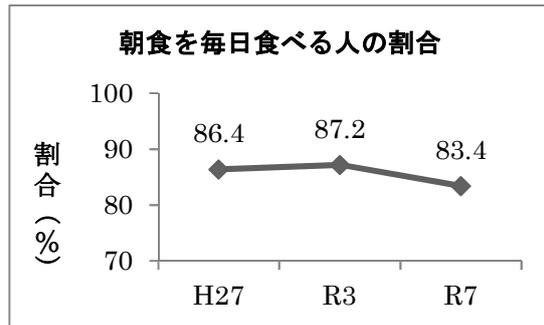


計画期間で2.5ポイント減少しています。4割以上の市民が週に2回以上の運動をしています。

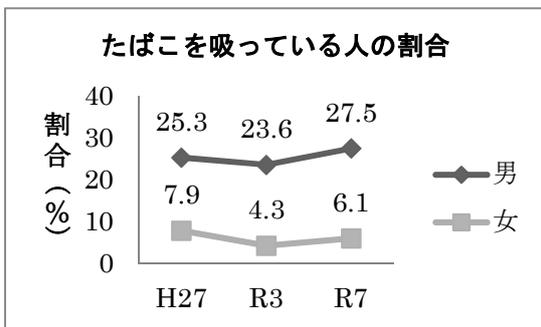
第2部 大仙市民の健康をとりまく状況



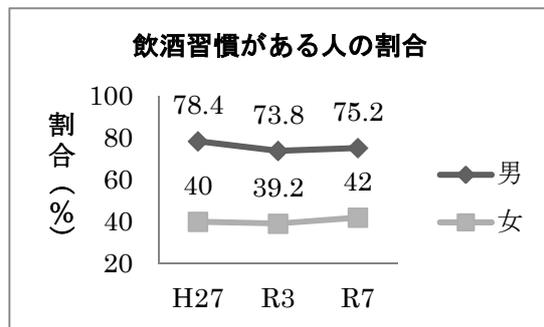
計画期間で8.4ポイント増加しています。9割以上の市民が食生活に配慮しています。



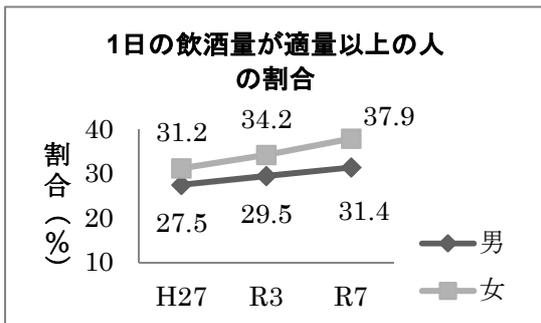
計画期間で、3ポイント減少しています。約8割の市民が毎日朝食を食べています。



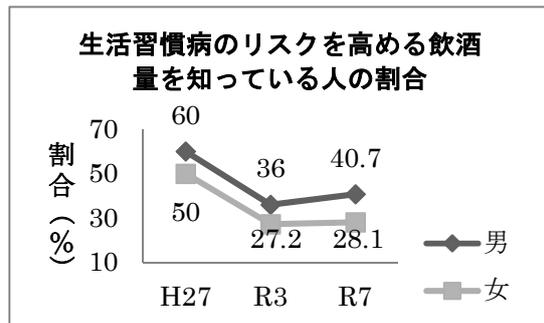
計画期間で男性は2.2ポイント増加し、女性は1.8ポイント減少しています。男性は約4人に1人が喫煙しています。



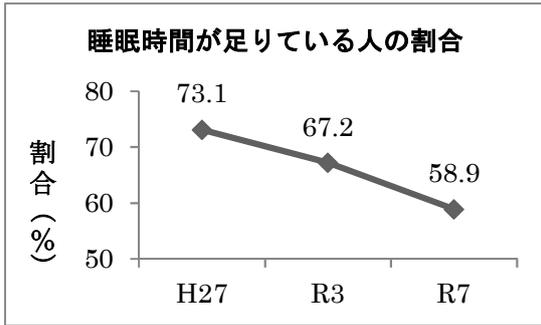
計画期間で男性は3.2ポイント減少し、女性は2ポイント増加しています。



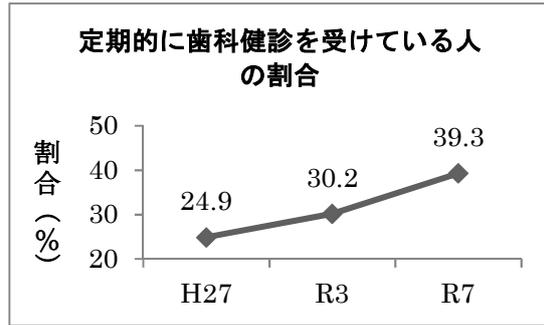
計画期間で男性は3.9ポイント、女性は6.7ポイント増加しています。



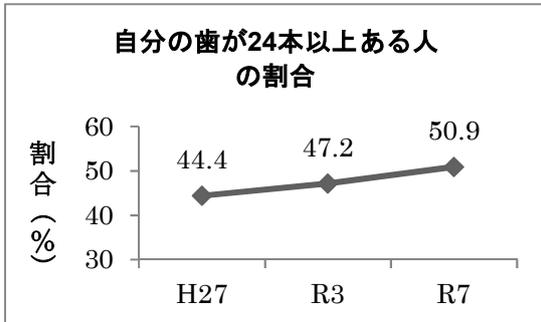
計画期間で男性は19.3ポイント、女性は21.9ポイント減少しています。



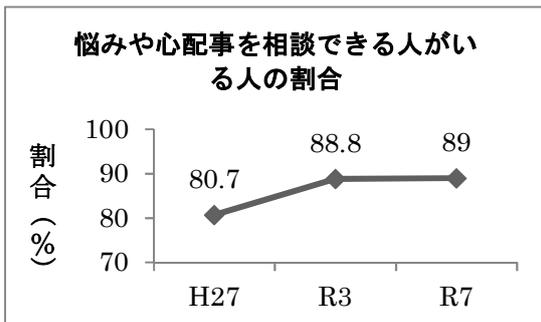
計画期間で 14.2 ポイント減少しています。睡眠時間が足りていると感じている人が減っています。



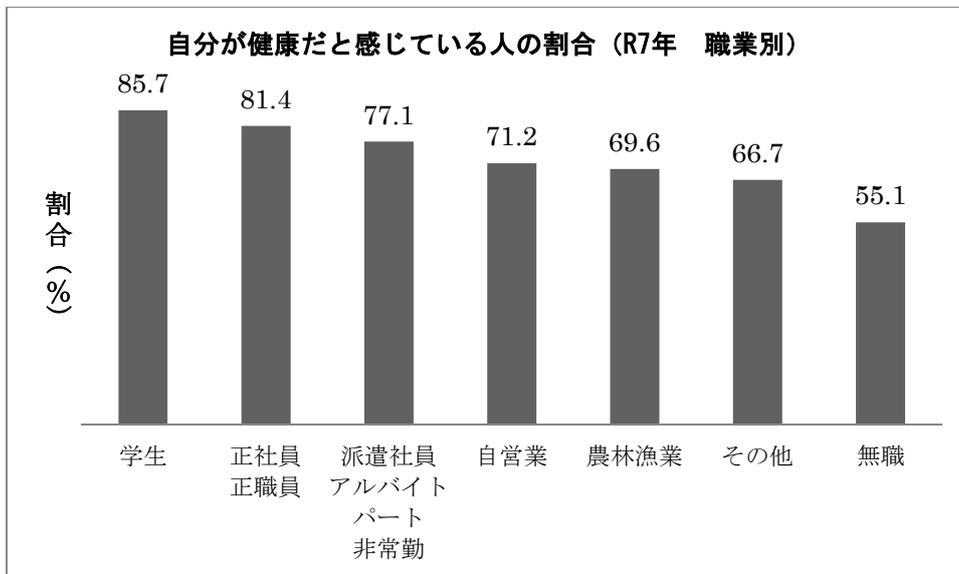
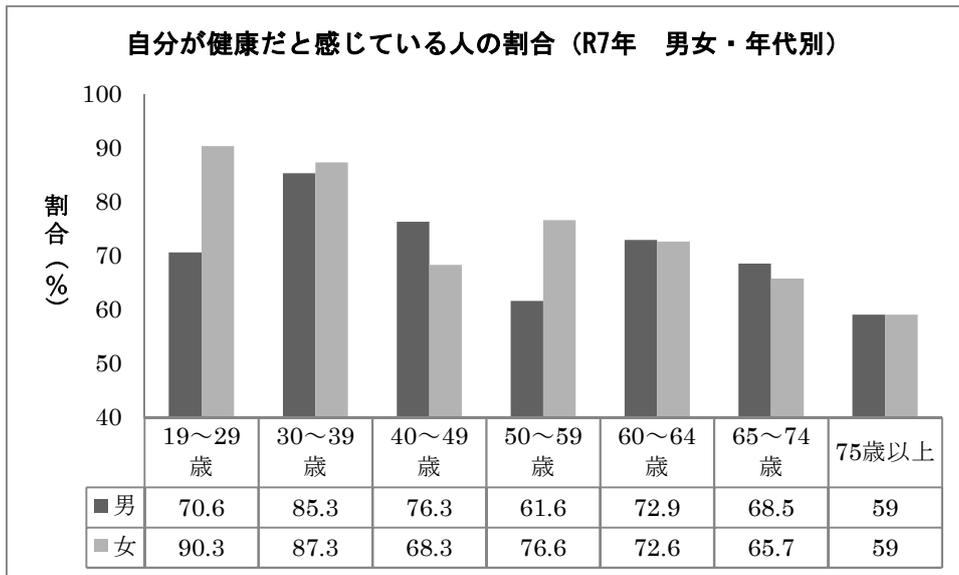
計画期間で 14.4 ポイント増加しています。定期的に歯科健診を受ける人が増えています。



計画期間で 6.5 ポイント増加しており、5割以上の市民が自分の歯が 24 本以上あります。



計画期間で 8.3 ポイント増加しています。8割以上の市民は相談できる人がいます。

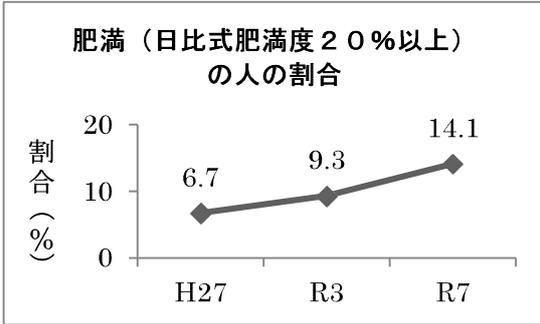


自分の健康状態について「健康である」「どちらかといえば健康である」と回答した人の割合は、男性では、75歳以上を除いて50歳代が特に低い状態にあり、女性は40歳代を除いて年代が若いほど高い傾向にあります。

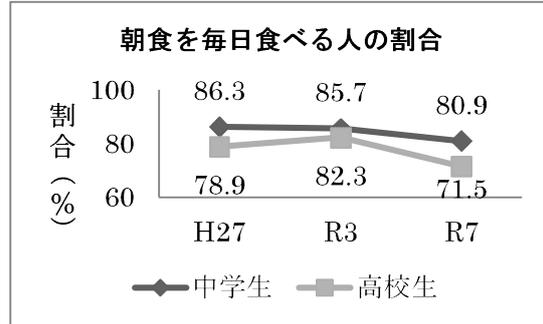
また、男性と女性を比較すると、19～29歳と50歳代で差が大きくみられます。60歳以降になると、ほぼ同じ割合で推移しています。

職業別では、「学生」が最も高く、次いで「正社員・正職員」、「派遣社員・アルバイト・パート・非常勤」と続いており、「無職」が一番低くなっています。

■中学生・高校生



計画期間で7.4ポイント増加しており、肥満の割合が増加しています。



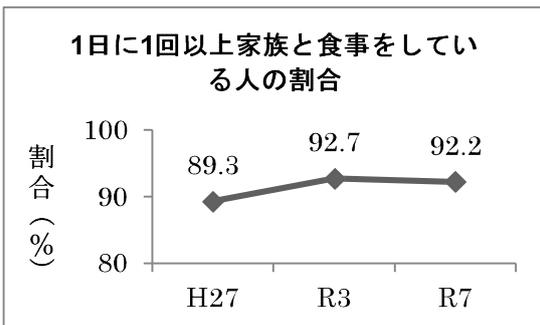
計画期間で中学生は5.4ポイント、高校生は7.4ポイント減少しています。高校生が中学生よりも朝食を欠いている状況です。

日比式肥満度（6～14歳の児童の肥満及びやせの程度をみる指標）

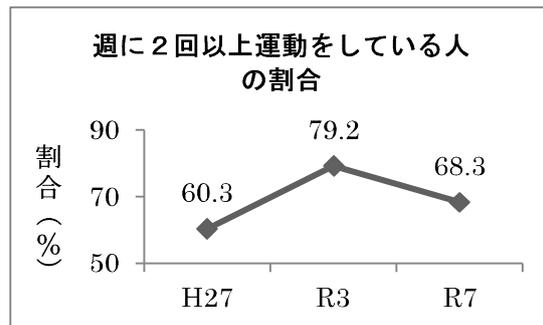
日比式肥満度 (%) = [実測体重 (kg) - 標準体重 (kg)] ÷ 標準体重 (kg) × 100

標準体重 (kg) = 係数1 × 身長 (cm)³ + 係数2 × 身長 (cm)² + 係数3 × 身長 (cm) + 係数4

| 性別 | 係数1 | 係数2 | 係数3 | 係数4 |
|----|--------------|-------------|---------|----------|
| 男子 | 0.0000641424 | -0.0182083 | 2.01339 | -67.9488 |
| 女子 | 0.0000312278 | -0.00517476 | 0.34215 | 1.66406 |

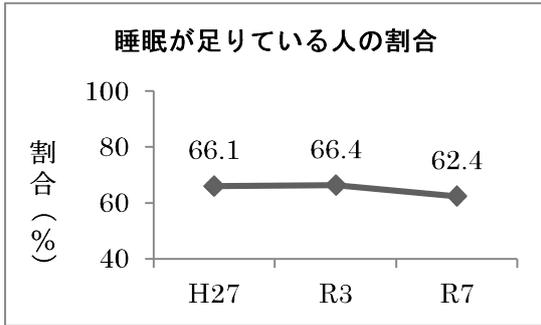


計画期間で2.9ポイント増加しています。9割以上の方が家族と一緒に食事をしています。

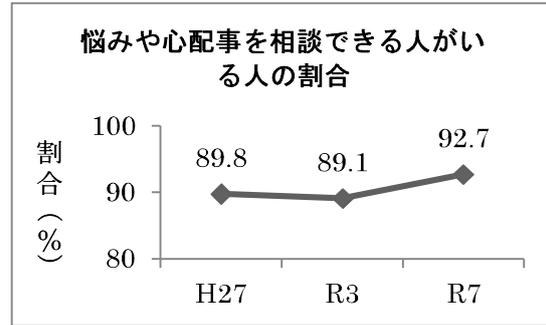


計画期間で8ポイント増加しており、運動習慣をもつ人が増えています。

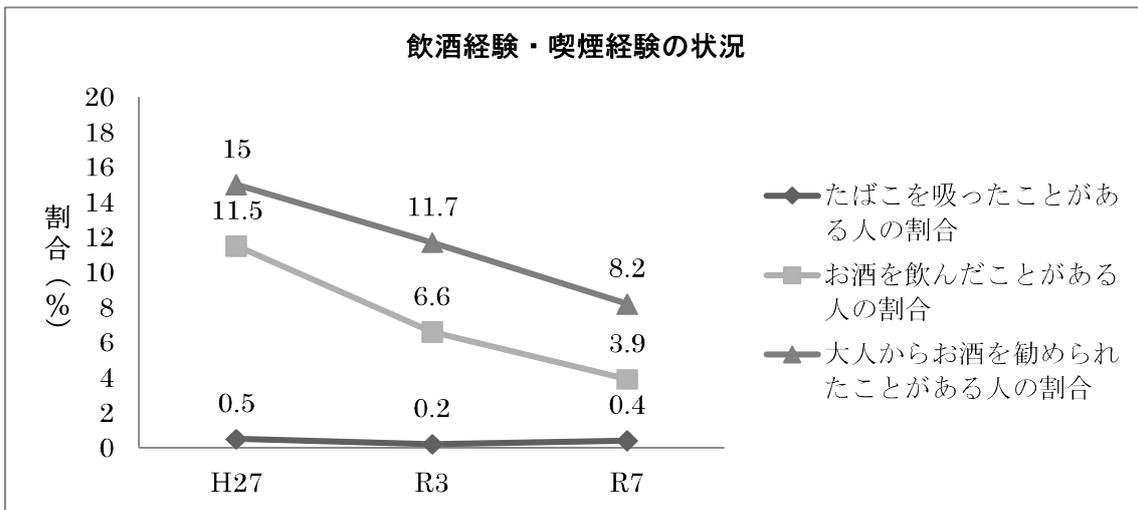
第2部 大仙市民の健康をとりまく状況



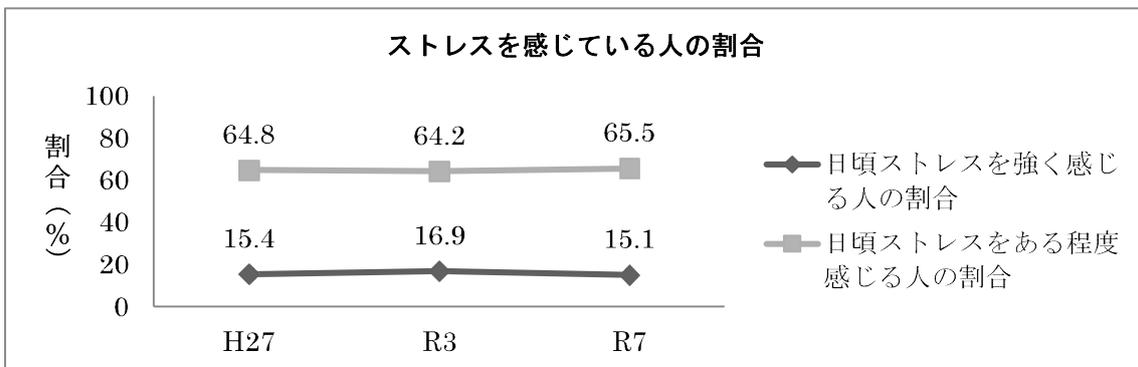
計画期間で 3.7 ポイント減少しています。



計画期間で、2.9 ポイント増加しています。9割以上の方は相談できる方がいます。



たばこを吸ったことがある人の割合は計画期間で 0.1 ポイント減少し、令和 7 年は全体の 0.4%となっています。また、お酒を飲んだことがある人の割合は、計画期間で 7.6 ポイント減少しています。大人からお酒を勧められたことがある人の割合は計画期間で 6.8 ポイント減少し全体の 8.2%となっています。



日頃ストレスを強く感じる人の割合は、0.3 ポイント減少し全体の約 15%となっています。また、全体の約 65%の方が日頃ストレスをある程度感じている状況です。